渋民村より

石川啄木

青空文庫

一

杜陵を北へ僅かに五里のこの里、人は一日の間に往復致し候へど、春の歩みは年々一週が程を要し候。御地は早や南の枝に大和心綻ろび初め候ふの由、満城桜雲の日も近かるべくと羨やみ上げ候。こゝは梅桜の蕾未だ我瞳よりも小さく候へど、さすがに春風の小車道を忘れず廻り来て、春告鳥、雲雀などの讃歌、野に山に流れ、微風にうるほふ小菫の紫も路の辺に萌え出で候。今宵は芝蘭の鉢の香りゆかしき窓、茶煙一室を罩め、沸る湯の音暢やかに、門田の蛙さへ歌声を添へて、日頃無興にけをされたる胸も物となく安らぎ候まゝ、思ひ寄りたる二つ三つ、※々たる燈火の影に覚束なき筆の歩みに認め上げ候。

近事戦局の事、一言にして之を云へば、吾等国民の大慶この上の事や候ふべき。臥薪十年の後、甚だ高価なる同胞の資財と生血とを投じて贏ち得たる光栄の戦信に接しては、誰か満腔の誠意を以て歓呼の声を揚げざらむ。吾人如何に寂寥の児たりと雖ども、亦野翁酒樽の歌に和して、愛国の赤子たるに躊躇する者に無御座候。

戦勝の光栄は今や燎然たる事実として同胞の眼前に巨虹の如く横はれり。此際に於て、因循姑息の術中に民衆を愚弄したる過去の罪過を以て当局に責むるが如きは、吾人の遂に忍びざる所、たゞ如何にして勝ちたる後の甲の緒を締めむとするかの覚悟に至りては、心ある者宜しく

挺身肉迫して叱咤督励する所なかるべからず候。近者北米オークランド湖畔の一友遙かに書を寄せて曰く、飛電頻々として戦勝を伝ふるや、日本人の肩幅日益日益広きを覚え候ふと。嗚呼人よ、東海君子国の世界に誇負する所以の者は、一に鮮血を怒涛に洗ひ、死屍を戦雲原頭に曝して、汚塵濛々の中に功を奏する戦術の巧妙によるか。充実なき誇負は由来文化の公敵、真人の蛇蝎視する所に候。好んで酒盃に走り、祭典に狂する我邦人は或は歴史的因襲として、アルコール的お祭的の国民性格を作り出だしたるに候らはざるか。斯の千載一遇の好機会に当り、同胞にして若し悠久の光栄を計らず、徒らに一時の旗鼓の勝利と浮薄なる外人の称讃に幻惑するが如き挙に出でしめば、吾人は乃ち伯叔と共に余生を山谷の蕨草に托し候はむかな。早熱早冷の大に誡しむべきは寧ろ戦呼に勇む今の時に非ずして、却りて戦後国民の覚悟の上にあるべくと存候。万邦環視の中に一大急飛躍を演じたる吾国は、向後如何なる態度を以てか彼等の注目を迎へむとする。洋涛万里を破るの大艦と雖ども、停滞動く事なくむば汚銹腐蝕を免かれ難く、進路一度梶を誤らば遂に岩角の水泡に帰せむのみ。況んや形色徒らに大にして設備完たからざる吾現時の状態に於てをや。

二

惟ふに、少しく夫に通暁する者は、文化の源泉が政治的地盤に湧出する者に非ざるの事実と

共に、良好なる政治的動力の文化の進程に及ぼす助長的効果の事実をも承認せざる能はず候。而して斯の如き良好なる政治的動力とは、常に能く国民の思潮を先覚し誘導し、若しくは、少なくともそれと併行して、文化の充実を内に収め、万全の勢威を外に布くの実力を有し、以て自由と光栄の平和を作成する者に有之、申す迄もなく之は、諸有創造的事業と等しく、能く国民の理想を体達して、一路信念の動く所、個人の権威、心霊の命令を神の如く尊重し、直往邁進毫も撓むなき政治的天才によつて経緯せらるゝ所に御座候。吾人が今世界に発揚したる戦勝の光栄を更に永遠の性質に転じて、古代希臘の尊厳なる光輝を我が国土に復活せしめ、吾人の思想、文学、美術、学芸、制度、風気の凡てをして其存在の意義を世界文化史上に求めむが為めに、之が助長的動力として要する所の政治者は固より内隠忍外倨傲然も事に当りて甚だ小●●なる太●●郎内閣に非ず、果たかの伊藤や大隈や松方や山県に非ずして、実に時勢を洞観する一大理想的天才ならざる可からず候。一例をあぐれば、其名独逸建国の歴史を続ぶる巨人ビスマルクの如きに候ふ可く、普仏戦争に際して、非常の声誉と、莫大の償金と、アルサス、ローレンスと、烈火の如き仏人の怨恨とを担ふて、伯林城下に雷霆の凱歌を揚げたる新独逸を導きて、敗れたる国の文明果して劣れるか、勝たる国の文明果して優れるかと叫べるニイチエの大警告に恥ぢざる底の発達を今日に残し得たる彼の偉業は、彼を思ふ毎に思はず吾人をして讃嘆せしむる所に候はずや。嗚呼今や我が新日本は、時を変へ、所を変へ、人種を変へて、東洋の、否世界の、一大普仏戦争に臨み、遠からずして独逸以上の光栄と、猜疑と、怨恨と、報酬とを千

代田城下に担ひ来らむとす。而も吾人はこの難関に立たしむべき一人のビ公を有し候ふや否や。あらず、彼を生み出したる独逸の国民的自覚と、民族的理想と自由の精気と堅忍進取の覚悟の萌芽を四千余万の頭脳より搾出し得べきや否や。勝敗真に時の運とせば、吾人は、トルストイを有し、ゴルキイを有し、アレキセーフを有し、ウヰツテを有する戦敗国の文明に対して何等後へに瞠若たるの点なきや否や。果た又、我が父祖の国をして屈辱の平和より脱せむが為めに再び正義の名を借りて干戈を動かさしむるの時に立ち至らざるや否や。書して茲に至り吾人は実に悵然として転た大息を禁ずる能はざる者に候。嗚呼今の時、今の社会に於て、大器を呼び天才を求むるの愚は、蓋し街頭の砂塵より緑玉を拾はむとするよりも甚しき事と存候。吾人は我が国民意識の最高調の中に、全一の調和に基ける文化の根本的発達の希望と、愛と意志の人生に於ける意義を拡充したる民族的理想の、一日も早く鬱勃として現はれ来らむ事を祈るの外に、殆んど為す所を知らざる者に御座候。

（四月廿五日夜）

三

四月二十六日午後一時。

夜来の春雨猶止まずして一山風静かに、窓前の柳松翠色更に新たなるを覚え、空廊に響

く滴水の音、濡羽をふるふ鶯の声に和して、艶だちたる幽奥の姿誠に心地よく候。この雨収まらば、杜陵は万色一時に発く黄金幻境に変ず可くと被存候。

今日は十時頃に朝餐を了へて、（小生の経験によれば朝寝を嫌ひな人に、話せる男は少なき者に御座候呵々）二時間許り愛国詩人キヨルネルが事を繙読して痛くも心を躍らせ申候。張り詰めたる胸の動悸今猶静め兼ね候。抑々人類の「愛」は、万有の生命は同一なりてふ根本思想の直覚的意識にして、全能なる神威の尤も円満なる表現とも申す可く、人生の諸有経緯の根底に於て終始永劫普遍の心的基礎に有之候へば、国家若しくは民族に対する愛も、世の道学先生の言ふが如き没理想的消極的理窟的の者には無之、実に同一生命の発達に於ける親和協同の血族的因縁に始まり、最後の大調和の理想に対する精進の観念に終る所の、人間凡通の本然性情に外ならず候。熱情詩人、我がキヨルネルの如きは、この沈雄なる愛国の精神を体現して、其光輝長へに有情の人を照らすの偉人と被存候。

時は千八百十三年、モスコーの一敗辛くも巴里に遁れ帰りたる大奈翁に対し、普帝が自由●光栄の義戦を起すべく、三月十七日、大詔一下して軍を国内に徴するや、我がキヨルネルは即日筆を擲つて旗鼓の間に愛国の歩調を合し候ひき。彼は祖国の使命を以て絶大なる神権の告勅を実現するにありとしたり。されば彼に於ては祖国の理想と自由の為めに、尊厳なる健闘の人たるは実に其生存の最高の意義、信念なりき。彼乃ち絶叫して曰く、人生に於ける最大の幸福の星は今や我生命の上に輝きたり。あゝ祖国の自由のために努力せむには如何なる犠牲と

雖ども豈尊としとすべけむや。力は限りなく我胸に湧きぬ。さらば起たむ、この力ある身と肉を陣頭の戦渦に曝さむ、可ならずや、と。斯の如くして彼は、帝室劇詩人の栄職を捨て、父母を離れ、恋人に袂別して、血と剣の戦野に奮進しぬ。陣中の生活僅かに十六旬、不幸にして虹の如き二十有三歳を一期に、葉月二十六日曙近きガデブツシユの戦に敵弾を受けて瞑したりと雖ども、彼の胸中に覚醒したる理想と其健闘の精神とは、今に生ける血となりて独逸民族の脈管に流れ居候。誰か彼を以て激情のために非運の最期を遂げたる一薄倖児と云ふ者あらむや。ゲーテ、シルレル、フユヒテ、モムゼン、ワグネル、ビスマルク等を独逸民族の根と葉なりとせば、キヨルネルは疑ひもなく彼等の精根に咲き出でたる、不滅の花に候。鉄騎十万ラインを圧して南下したるの日、理想と光栄の路に国民を導きたる者は、普帝が朱綬の采配に非ずして、実にその身は一兵卒たるに過ぎざりし不滅の花の、無限の力と生命なりしに候はずや。剣光満洲の空に閃めくの今、吾人が彼を懐ふ事しかく切なる者、又故なきに非ず候。

　日露干戈を交へて将に三閲月、世上愛国の呼声は今殆んど其最高潮に達したるべく見え候。吾人は彼等の赤誠に同ずるに於て些の考慮をも要せざる可く候。然れども強盛なる生存の意義の自覚に基かざる感激は、遂に火酒一酔の行動以上に出で難き事と存候。既に神聖なる軍国の議会に、露探問題を上したるの恥辱を有する同胞は、宜しく物質の魔力に溺れむとする内心の状態を省みる可く候。省みて若し、漸く麻痺せむとする日本精神を以て新たなる理想の栄光裡に復活せしめむとする者あらば、先づ正に我がキヨルネルに学ばざる可からず候はざるか。愛

国の至情は人間の美はしき本然性情なり。個人絶対主義の大ニイチエも、普仏戦争に際しては奮激禁ぜず、栄誉あるバアゼルの大学講座を捨てゝ普軍のために一看護卒たるを辞せざりき、あゝ今の時に於て、彼を解する者に非ざれば、又吾人の真情を解せざる可く候。身を軍籍に措かざれば祖国のために尽すの路なきが如き、利子付きにて戻る国債応募額の多寡によつて愛国心の程度が計らるゝ世の中に候。嗟嘆、頓首。

四

四月二十八日午前九時

今日は空前の早起致し候ため、実は雨でも降るかと心配仕り候処、春光嬉々として空に一点の雲翳なき意外の好天気と相成、明け放したる窓の晴心地に、壁上のベクリンが画幀も常よりはいと鮮やかに見られ候。只今三時間許り、かねて小生の持論たる象徴芸術の立場より現代の思想、文芸に対する挑戦の論策を編まむ下心にて、批評旁々、著者嘲風先生より送られたる「復活の曙光」繙読致候。然しこれは、到底この短き便りに述べ尽し難き事に候へば、今日は品を代へて一寸、盛中校友会雑誌のために聊か卑見申進むべく候。或は之れ、なつかしき杜陵の母校の旧恩に酬ゆる一端かとも被存候。

此雑誌も既に第六号を刊行するに至り候事、嬉しき事に候へど、年齢に伴なふ思想の発達著

るしからざるに徴すれば、精神的意義に乏しき武断一偏の校風が今猶勢力を有する結果なるべくと、婆心また多少の嗟嘆なき不能候。嘗て在校時代には小生もこれが編輯の任に当りたる事有之候事とて、読過の際は充分の注意を払ひたる積りに御座候。

論文欄は毎号紙数の大多部を占むると共に、又常に比較的●他欄より幼稚なる傾向有之候が、本号も亦其例外に立ち難く見受けられ候。然れども巻頭の中館松生君が私徳論の如きは、其文飛動を欠き精緻を欠くと雖ども、温健の風、着実の見、優に彼の気取屋党に一頭地を抜く者と被存候。斯くの如き思想の若し一般青年間に流布するあらば、健全なる校風の勃興や疑ふ可からず候。同君の論旨が質朴謙遜に述べられてある丈、小生も亦其保守的傾向ある所謂私徳に対して仰々しく倫理的評価など下すまじく候。

●●此文を読みて小生は、論者の実兄にして吾等には先輩なる鈴木卓苗氏を思出だし候ひき。荒川君の史論は、何等事相発展の裡面に哲理的批判を下す文明的史眼の萌芽なきを以て、主観的なる吾等には興味少なく候へ共、其考証精密なる学者風の態度は、客気にはやる等輩中の一異色に候。小生は、単に過去の事蹟の記録統計たるに留まらば、歴史てふ興味ある問題も人生に対して毫も存在の意義を有せざる者なる事に就きて、深沈なる同君の考慮を煩はしたく存候。吾人の標準とか題したる某君の国家主義論は、推断陋劣、着眼浅薄、由来皮相の国家主義を、弥益皮相に述べ来りたる所、稚気紛として近づく可からず候。筆を進めて其謬見の謬見たる所以を精窮するは評家の義務かも知れず候へど、自明の理を管々しく申上ぐるも児戯に等しかる

べく候に付、差控へ申候。●●●●●相沢活夫君の論は、此号の論客中尤も文に老練なる者と可申（まうすべく）、君の感慨には小生亦私（ひそ）かに同情に堪へざる者に有之候。既にこの気概あり、他日の行動嘱目（しよくもく）の至りに御座候。（以下次号）

［「岩手日報」明治三十七年四月二十八、二十九、三十、五月一日］

青空文庫情報

底本：「石川啄木全集　第四巻　評論・感想」筑摩書房
　1980（昭和55）年3月10日初版第1刷発行
　1982（昭和57）年11月30日初版第3刷発行
初出：「岩手日報」
　1904（明治37）年4月28日～5月1日
入力：林　幸雄
校正：noriko saito
2010年5月18日作成
2018年7月17日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

渋民村より

石川啄木

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/